

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会（秋葉区民幸福度調査部会）

区分	内容
テーマ・事業名	秋葉区民幸福度調査（秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査） 【事業費予算 800 千円】
事業目的・概要	(1) 区民自らが「秋葉区に暮らす幸せ」とは何かを考え、地域の資源と強みを再評価すると共に、地域の魅力を内外に発信するための材料を得る。 (2) 地域の課題を明らかにし、新潟市政および秋葉区政に反映させると共に、秋葉区自治協議会の事業立案の参考にする。
事業の実施実績 （実施回数、参加者数など）	(1) 調査票の発送による調査 ●期間 令和3年8月10日発送～8月末締切 ●対象者 令和3年4月時点で秋葉区在住15才以上の中から無作為抽出された2,000人 ●回答数 892件（うちWEBフォームでの回答115件） ●回答率 44.6% (2) WEBフォームによる一般募集 ●期間 令和3年9月6日～10月8日 ●回答数 143件 (3) 中学生対象調査（WEBフォームでの回答） ●期間 令和3年9月7日～10月8日 ●対象者 令和3年4月時点で秋葉区内の中学校に通う中学生1,966人 ●回答数 478件 ●回答率 24.3%
事業の評価  地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など	【評価】 この調査は、自治協議会メンバーの献身的な努力に加え、秋葉区役所および大正大学との協働作業や、NPO 法人まちづくり学校による的確なアドバイスの結果として実現することができました。秋葉区はそこに住む人々にとってどのような存在なのか？そんな素朴な疑問から始まったプロジェクトでしたが、これを通して区民の意識という目に見えないものを様々な角度から可視化することができました。これによって得られたデータは地域の未来を描く上で大変貴重なものであり、行政への提言や協議会内の議論の参考とするだけでなく、自らが行動していくための礎として、秋葉区ならではのまちづくりのために活用していきたいと思ひます。また、この成果を共有することにより、秋葉区を愛する幅広い個人・団体の皆様の活動の中に活かしていただきたいと思ひます。（部長 金子 洋二）

秋葉区自治協議会の提案事業であるこのアンケート調査は、貴重な資料であると改めて思います。この部会活動で、調査項目の組立てを学び、また分析の積み重ねを段階ごとに見ることができ、このプロセスで多くを学びました。調査結果では特に、環境に配慮した生活をしている人の割合が 88%に上っている。私たち秋葉区民が、この環境意識の高さを自覚することで、これからのまちづくりを生かせるのではないかと考えます。(副部長 長谷川 啓子)

このような大規模調査に企画段階から関与し、調査報告出来た事は貴重な体験であった。調査項目「住み良い」「住み続けたい」「愛着がある」の好結果により、8 割を超える人達が幸せを感じているという『幸福指標』の高さに驚がり、更に特筆すべきは、県外出身者の 6 割が秋葉区に愛着を持っている事が示された事である。私たちの「秋葉区」も満更捨てたものではなく、この大切な意識基盤を活かして行く事にもっと力を注がなければならない。(荒井 武雄)

「秋葉区民幸福度調査」は私の知る限りでは初めての調査であり、報告書にもあるとおり年代別、地域別など様々な条件に於いて分析されており大変素晴らしい報告書だと思います。これは、金子会長の功績だと思います。この調査の成果を行政は多に活用して問題点を点検し、自助・共助・公助のうち公助で区民がより暮らしやすい地域になる様な施策に役立てて欲しいです。(伊藤 治好)

秋葉区民の幸福度調査に強い関心を持ってメンバーにエントリーしました。「幸せとは何か」を自分に問うことに始まり、この調査項目に議論を重ね、アンケート用紙の配布作業をメンバーみんなで黙々とやり終えた時は何とも言えない充実した気持ちになりました。調査の分析結果では「地域の助け合いについてやや心配」に注目しています。今ある立場でこの調査結果を今後どのように活かしていけばよいかを考えていきたいと思っています。(大貫 弘美)

幸福度調査は多々実施されていますが、身近に感じられませんでした。この調査を秋葉区で実施したことで身近に感じ、区の実態が把握できたことは大変有意義でした。初回の実施のため傾向は今後の調査に任せるにし、今回性別、年代別、住居別、出生別にみたことでデータの比較ができました。今後、この幸福度調査データが行政や希望者に公開・有効活用され、区民の「幸せ」の尺度として幸福度アップに繋がる事を期待します。(坂口 憲夫)

生活の利便性、自分らしい生き方の項目結果には予想外の数値。「日常生活

用品の買い物に不便していないや「交通手段に不便がない」など、当初の予想に反した集計結果に驚きでした。「自然豊かである」「犯罪が少ない」「災害が少ない」など相対的に幸福で住みやすい調査結果に表れた。ちなみに未回収の意見が気になるようです。(保科 代志夫)

調査結果からは、区民の「安心・安全な居住環境」が確保されていることが明らかとなった。一方、就業環境の整備が不十分であること、日常の買い物への不安、子育てに関する情報提供・取得の課題が明らかとなった。また、青年期は他世代に比して地域への愛着が低く、地域とのつながりが希薄であると予測される。今後は、次世代を育成するという観点から地域課題をともに未来から考え、対話し、解決していくことが重要であると考えます。(渡邊 彩)